

再稼働容認判断をした花角知事に怒りを込めて抗議し、 県議会ではなく公約どおり県民に信を問うよう求めて 1200 人の人間の鎖で県庁を包囲！



人間の鎖行動に入る前に、原発から守りたいとの思いを込めて、「ふるさと」を全員で合唱

私たちは黙らない！
公約違反を許さない
再稼働を許さない

明確な理由も示せずに「再稼働の是非は県民に信を問う」との公約を投げ捨てた花角知事

どうやって県民を刺激せずに再稼働に持っていくかに腐心してきた花角知事の7年間だと言えます。

◆三つの検証を受け継ぐポーズをとったものの途中で打ち切り、教訓を活かさず。

◆県民投票は二者択一だと切り捨てたが知事自らの容認の判断も二者択一である。

恣意的、誘導的で問題があるとされる県民意識調査でも6割が「再稼働の条件が現状で整っていない」としていることを踏まえれば、「今は再稼働の是非を判断できる状況にない」とする選択肢もある筈

◆「国の規制基準に合格しているものを合理的な理由もなく止めることは難しい」としている。最初から国の言いなりで結論も決まっていたというわけではないか。

◆「防災認知度が高いほど再稼働に肯定的」とし、否定的な人は無知だと言わんばかり。

原発の持つ異質な危険性に全く言及なしである。

原発ゼロ長岡市民ネット結成14周年 原発再稼働を考える市民のつどいに130人 講演「原発と地域経済」 藤堂史明さん

「原発は立地地域を豊かにしない」
「プラスだったのは建設業だけ。他産業は全て普通以下」。1970年代からの柏崎市などのデータを基に研究を続けてこられた新潟大学経済学部教授の藤堂先生のお話
に、「地域経済の活性化に原発再稼働が必要」と聞かされることの多い私たちは目を見開かされる思いでした。
「原発立地県の多くはもともと地方で、人口減ということがあるが、どの県も財政力は弱い。とりわけ新潟県は財政が悪化、『原発乞食』では持続可能性がない。40年以上原発を立地させてきた結果が、財政ワースト2という現実を認め、そこから将来を構想すべき」としました。原発の持つ危険性や事故による巨額な損失にふれながら、それでもなぜ再稼働しようとするのかについて、わかりやすく説明していただきました。

- ◆つどいの資料（ゼロネット1年間の活動のまとめ、集会アピール、会計報告）を同封しました。ぜひご一読ください。
- ◆なお、当日参加できなかった方で、藤堂史明さんの講演資料をご希望の方はお申し出ください。（先着20名まで）

【会員継続のお願い】
☆12月から始まる新年度もぜひ会員を継続してください。一緒に力を合わせて原発ゼロに取り組んでいきましょう！
更新がまだお済みでない方には、納入封筒か振込用紙を同封させて頂きましたのでお手続きの程よろしくお願ひします。
なお、事務局またはお近くの世話人にご連絡いただければ対応させて頂きます。
☆周りの人に声をかけ、大勢の人から新規会員になってもらいましょう！

12月のアオーレ前宣伝行動は 12月11日(木) 16時～16時30分 ☆ぜひご参加ください